

トビウオ通信 (R7 第4号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和6年漁期の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和6年漁期（令和6年8月～令和7年5月）の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業（かけまわし）」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業（2そうびき）」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業（かけまわし）

1隻当り漁獲量は平年を下回り、水揚金額は平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業（かけまわし）34隻の令和6年漁期（令和6年9月1日～令和7年5月31日）の総漁獲量は2,191トン、総水揚金額は13億3,138万円でした。また、1隻当りの漁獲量（以下、CPUE）は66トンで平年を25%下回り、水揚金額は4,021万円です（過去10年平均：88トン、4,121万円）（図1）。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

ソウハチ（地方名：エテガレイ）のCPUEは8.3トン（平年比54%）、ムシガレイ（地方名：ミズガレイ）のCPUEは2.0トン（平年比79%）、ヒレグロのCPUEは1.8トン（平年比28%）、アカガレイのCPUEは2.9トン（平年比48%）で、4魚種とも平年を下回りました。過去5年間（令和2年～令和6年、以下同様）のCPUEの動向は、全魚種において「減少」の傾向にあります（図2①）。

ケンサキイカは低水準が続く、ヤリイカは平年を上回る

ケンサキイカ（地方名：シロイカなど）のCPUEは0.1トン（平年比11%）で、平成5年漁期以降で過去最低の水揚げを記録し、依然として低い水準が続いています。ヤリイカのCPUEは4.9トン（平年比169%）で平年を上回り、好調な漁況でした。スルメイカのCPUEは1.9トン（平年比80%）で、平年を下回りました（図2②）。

ニギスは好調、キダイ、アカムツは平年を下回る

ニギス（地方名：トンコロ、オキギスなど）のCPUEは9.4トン（平年比136%）で平年を上回り好調な漁況でした。アナゴ・ハモ類のCPUEは5.2トン（平年比95%）で平年並みでしたが、アカムツ（地方名：ノドグロ）のCPUEは3.4トン（平年比87%）、キダイ（地方名：レンコ）のCPUEは3.1トン（平年比69%）で平年を下回りました。過去5年間のCPUEの動向は、ニギスは「増加」、それ以外の魚種は「減少」の傾向にあります（図2③）。

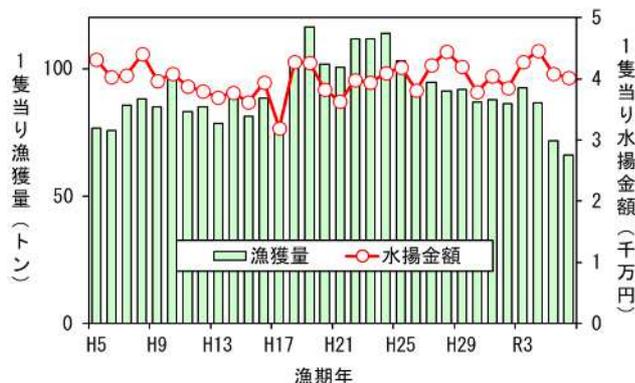


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の経年変化

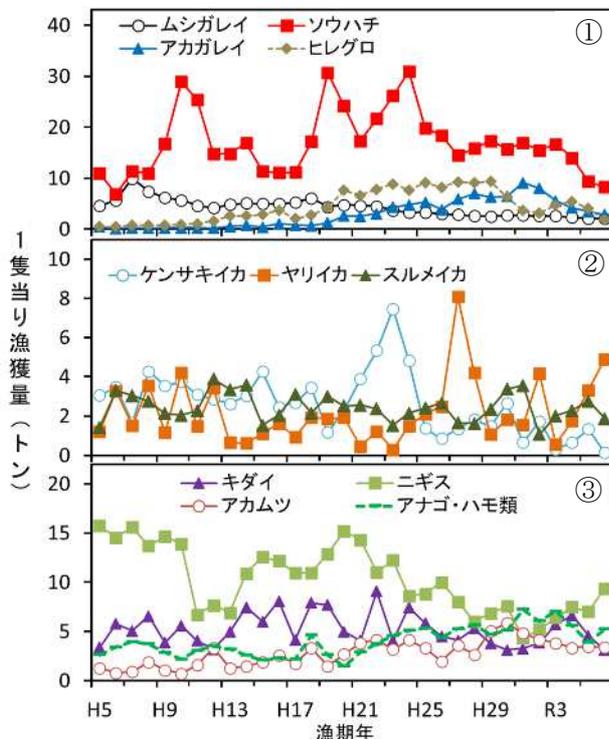


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向

＜文中の語句説明＞

- 平年は、過去10年〔平成26年漁期～令和5年漁期〕の平均です。
- 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。
- CPUEの動向は、当年を含む過去5年間での増減率が5%を超える場合は「増加」または「減少」とし、5%以内の場合は「横ばい」としています。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

1 統当り漁獲量は平年並み、水揚金額は平年を上回る

浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業（操業統数4統）の令和6年漁期（令和6年8月16日～令和7年5月31日）の総漁獲量は2,376トン、総水揚金額は17億6,006万円でした。また、1統当りの漁獲量（以下、CPUE）は594トンで平年並み、水揚金額は4億4,002万円で平年を27%上回りました（過去10年平均：624トン、3億4,691万円）（図3）。

ムシガレイ、ソウハチとも平年を下回る

ムシガレイのCPUEは14トン（平年比31%）で平年を下回り、記録の残る昭和61年漁期以降で過去最低の水揚げでした。ソウハチのCPUEは26トン（平年比72%）で平年を下回りました。ヤナギムシガレイ（地方名：ササガレイ）のCPUEは10トン（平年比83%）で平年を下回りました。過去5年間のCPUEの動向は、3魚種とも「減少」の傾向にあります（図4①）。

ケンサキイカは低調、ヤリイカは平年を上回る

ケンサキイカのCPUEは20トン（平年比53%）で平年を下回りました。一方、ヤリイカのCPUEは13トン（平年比127%）で平年を上回る水揚げでした。ヤリイカは令和2年漁期の豊漁以降、低調な漁獲が続いていましたが、今漁期は久しぶりに平年を上回る漁況となりました（図4②）。

アナゴ類、アンコウ類とも平年を下回る

アナゴ類のCPUEは39トン（平年比83%）、アンコウ類のCPUEは24トン（平年比73%）で平年を下回りました。アナゴ類、アンコウ類ともに過去5年間のCPUEの動向は「減少」傾向にあります（図4③）。

アカムツ・キダイは平年を下回る、マフグは依然として低調

アカムツのCPUEは34トン（平年比66%）で平年を下回りました。過去5年間のCPUEの動向は「減少」傾向にあり、今後の資源動向を注視する必要があります。キダイのCPUEは68トン（平年85%）で平年を下回りました。マフグのCPUEは19トン（平年比63%）で平年を下回り、平成30年漁期以降、低調な水揚げが続いています（図4④）。

この他、カワハギ類（主にウマヅラハギ）のCPUEは135トン（平年比691%）と、記録の残る平成5年漁期以降で最高の記録的な豊漁となりました。マダラのCPUEは19トン（平年比182%）、マダイのCPUEは40トン（平年比180%）と好調であった一方、マトウダイ（地方名：バトウ）のCPUEは15トン（平年比71%）、スルメイカのCPUEは14トン（平年比53%）、ニギスのCPUEは2トン（平年比23%）でいずれも平年を下回る漁況でした。

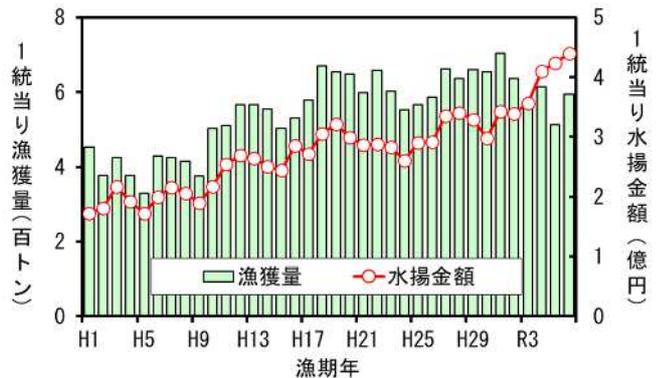


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量・水揚金額の経年変化

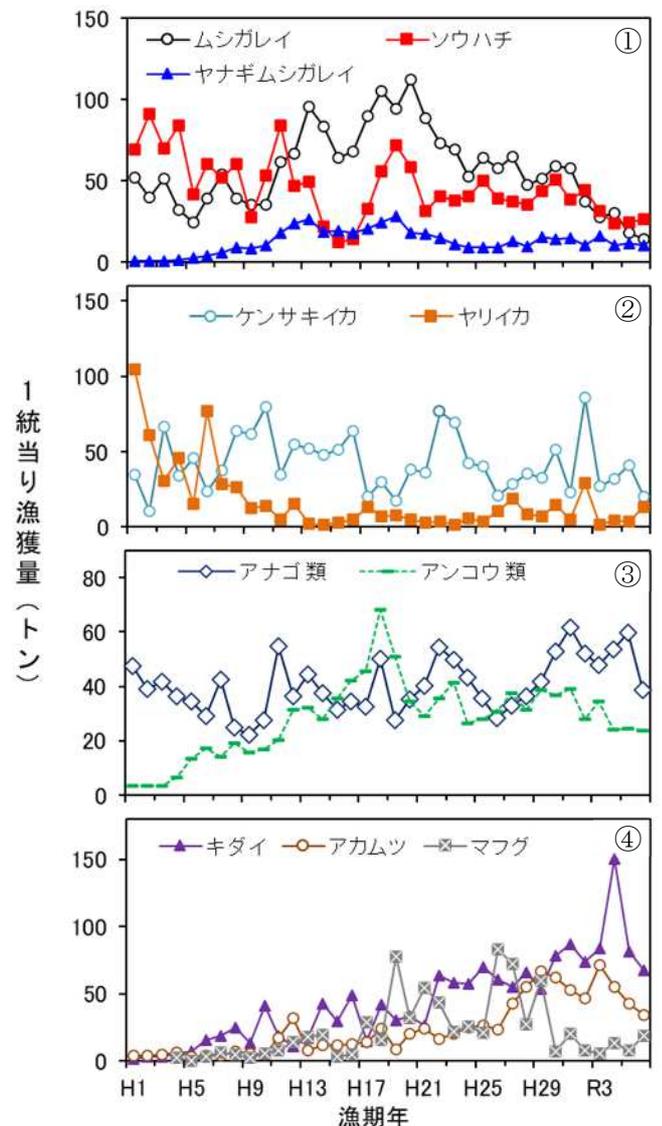


図4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向